

第24回里川文化塾

山を貫くトンネル用水路「二五穴」 参加者募集中!

にごあな

ミツカン水の文化センターでは、「使いながら守る水循環」を学ぶための「里川文化塾」を年に数回開いております。第24回目となる今回は、房総丘陵の小櫃川周辺に今も残るトンネル状の用水路「二五穴」に着目しました。「二五穴」は江戸時代後期から明治時代初期にかけてつくられたので、100年以上使いつづけてられています。その名の由来は、幅二尺×高さ五尺（およそ60cm×150cm）の大きさ。長いトンネルは200～700mあり、これをつないで用水路を形づくっています。

房総の住民たちの知恵と工夫の結晶ともいえる「二五穴」を再発見した国立歴史民俗博物館 研究部 教授の西谷 大さんと千葉県立中央博物館 主任 上席研究員の島立理子さんを講師に迎え、先人の苦勞と工夫を学び、そして往時の里山のあり方についても考えたいと思います。

なお、里川文化塾は第25回以降も企画中です。今後はホームページやメールマガジン「里川だより」でお知らせしますので、ぜひご参加ください!

日時：2016年7月31日（日）9:00～17:00ごろ
（小雨決行。荒天時の順延日＝8月3日（水））

フィールド：千葉県君津市・小櫃川周辺

座学会場：君津市立久留里城址資料館（千葉県君津市久留里字内山）

集合・解散場所：[集合] 9:00 JR 総武線「津田沼駅」南口
→貸切バスで君津市立久留里城址資料館へ移動
[解散] 17:00 ごろ JR 総武線「津田沼駅」南口
（交通状況により遅延の可能性あり）

当日の予定：午前中＝講師2名による座学
午後＝大戸用水・平山用水の現地視察
※上記は予定です。変更する場合がございますので、
詳しくはホームページをご覧ください

講師：西谷 大さん
国立歴史民俗博物館 研究部 教授・メタ資料科学研究センター長
島立理子 さん
千葉県立中央博物館 主任上席研究員

2016年7月31日（日）開催決定!
（千葉県君津市・小櫃川周辺）

※小雨決行。荒天時の順延日は8月3日（水）



「平山用水」の出口となる二五穴。田植えに備えて水を通し、稲刈りが始まる前のお盆過ぎに水を止める



水のない二五穴。秋から冬にかけてはこのような状態となる



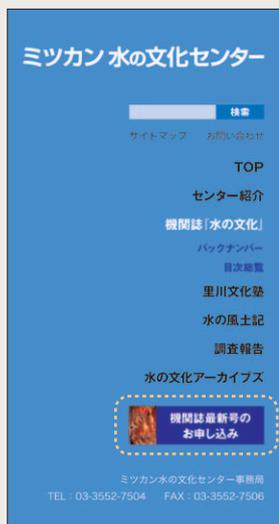
久留里城（くるりじょう）の復興天守閣から丘陵地帯を眺める



座学会場となる君津市立久留里城址資料館

ホームページに新しく2つのボタンが加わりました!

★機関誌の「試し読み申し込みボタン」を設置



まだ知らない人に機関誌の最新号を

年3回発行している機関誌『水の文化』。取材などで初めてお会いする方々に「こういう雑誌を出しているのですね!」と言われることもあります。そこで「多くの人に読んでいただきたい」と思い、ホームページ上に機関誌の「試し読み申し込みボタン」を加えました。クリックすると連絡先フォームに飛び、氏名やご住所などを入力していただくと、最新号が1冊お手元に届きます。

読者の皆さまの周囲で機関誌を知らない方には、ぜひ「試し読み申し込みボタン」のこともお伝えください。

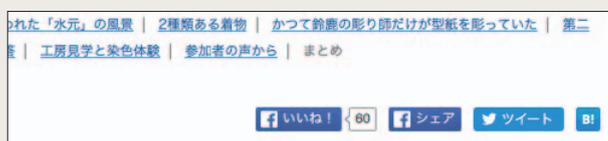
メニューボタンの下に設置した機関誌『水の文化』の「試し読み申し込みボタン」

★「ソーシャルボタン」が全ページに

「この記事、いいな!」と思ったらポチッ!

ホームページでは機関誌（Web版、PDF版）をはじめ、里川文化塾、水の風土記、調査報告など水にまつわる情報を発信していますが、皆さまがどんな情報に共鳴しているのか、どのような記事に関心が高いのかはなかなかわかりません。

少しでも皆さまの反応を知りたいと思い、ソーシャルボタンを設けました。ホームページをご覧になって、「こういう情報は知らせたいな」「この記事おもしろかった!」と思った場合は、ぜひ「ポチッ」と押してみてください。



新設したソーシャルボタン。左から「Facebook いいね」「Facebook シェア」「Twitter」「はてなブックマーク」

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

メールマガジン配信中！

「里川だより」

ミツカン水の文化センターは、時期やテーマに沿ったさまざまな「水の文化」にかかわる情報を盛り込んだメールマガジン「里川だより」を配信しています。

「里川だより」では、機関誌の発行や里川文化塾の募集告知など、センターからの情報をいち早くお届け。1人でも多くの人にご覧いただきたいと考えております。

メールマガジンの配信をご希望の方は、タイトルに「水の文化センターメールマガ配信希望」と記載して「tokyo-office@mizu.gr.jp」までメールをお送りください。

ご連絡をお待ちしております！

編集後記

当センターの活動で水辺や川を訪れることも多い。水辺にはかわいい河童の看板や像をよく見かける。私の子供の頃、河童は怖いものだった。いつからイメージが変わったのだろうか？取材を通じて人間が水をコントロールできるようになってきたことが変容の背景にあることが理解できた。しかし、今でも水難事故は絶えない。河童はかわいくてもいいが、自然はコントロールできない。過信することなく水に接していきたい。(後)

小松先生の取材の日の夜、5歳の息子に先生から何った話をした。すると「僕びびっちゃった。」と、見えない妖怪を気にして、普段にない早さでお利口に寝入った。育児や生活に妖怪の力は絶大で、知らぬ間に古来からの智慧を自分も引き継いでいるのを実感した。(松)

アニメや絵本の中のものだった妖怪が日本人の生活に根ざした文化なのだとよくわかった。子どもの頃に好きだった民話などを紐解く機会があったら、「怖い」「面白い」「可愛い」だけでない妖怪の裏側を探り、挿絵以上に恐ろしいその背景にも迫ってみたい。(原)

人間には様々な人がおり、妖怪には色々な種類がある。人間界の私は、妖怪という世界が実在し、妖怪自身は普通に生活をしているのかもしれないと感じた。自分の世界が当たり前ではなく、他者の世界も当たり前。違うことを受け入れることの大切さを再認識した号であった。(吉)

お化け屋敷は嫌いだ。つくりものとわかっていても、子どもの頃から刷り込まれた不気味さや、普通の人間では太刀打ちできない恐ろしさの印象が強いからだ。でも、相撲で勝つことができる河童には話しかけてみたいと思う。(力)

妖怪が日本人にとってこれほど重要な存在だったとは……。「河童も水辺にいるし、妖怪がいんじゃないかな？」と少し軽く考えて企画したことが今となっては恥ずかしいです。話は変わりますが、今号から印刷用紙を替え、背表紙に特集名と号数を記載します。「どの号だっけ？」と悩まずに、スッと手が伸びるようになればうれしいです。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第53号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル 4F

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀 NM・5F

Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

発行日

2016年(平成28)6月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学教授

鳥越皓之 大手前大学学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

後藤喜晃

松本裕佳

小林夕夏

原田朱野

吉田奈保子

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

執筆

佐々木 聖 (pp.6-9, pp.24-25)

手塚ひとみ (pp.13-15, pp.31-34)

開 洋美 (pp.10-12, pp.20-23, pp.26-30)

前川太一郎 (pp.16-19, pp.38-39)

撮影

大平正美 (p.13)

川本聖哉 (pp.2-3, pp.20-23)

鈴木拓也 (pp.16-19)

中野公力 (p.11, p.25, pp.45-49)

藤牧徹也 (p.6, pp.26-34, pp.38-44)

描画

わたなべじゅんじ (pp.5-36)

印刷

中塾総合印刷株式会社